

京都市基本計画審議会 第5回融合委員会
摘 録

日 時：平成22年6月29日（火）18：15～21：15

会 場：京都ガーデンパレスホテル2F 祇園

出席者：

- ・ 秋月謙吾（京都大学大学院公共政策連携研究部教授）
- ・ 浅岡美恵（NPO法人気候ネットワーク代表，弁護士）
- ・ 乾亨（立命館大学産業社会学部教授）
- ・ 尾池和夫（財団法人国際高等研究所所長，前京都大学総長）
- ・ 梶田真章（本山獅子谷法然院貫主）
- ・ 塚口博司（立命館大学理工学部都市システム工学科教授）
- ・ 新川達郎（未来の京都創造研究会座長，同志社大学大学院総合政策科学研究科教授）
- ・ 西岡正子（佛教大学四条センター所長・教育学部教育学科教授）
- 平井誠一（京都市未来まちづくり100人委員会代表幹事，株式会社西利代表取締役専務）
- ・ 松山大耕（未来の担い手・若者会議U35議長，妙心寺塔頭・退蔵院副住職）

※ 若者会議からの提案を説明するため，越村副議長も出席

- ◎ 宗田好史（次代の左京まちづくり会議座長，京都府立大学大学院生命環境科学研究科（環境科学専攻）准教授）

以上12名

◎…委員長 ○…副委員長

（50音順，敬称略）

1 開会

事務局（柴山総合企画局政策企画室長）

ただ今から、第5回融合委員会を始めさせていただきます。

なお、本委員会は公開とし、報道関係者の席を設けるとともに、市民の方々にも傍聴いただけるようにしている。御了承いただきたい。

本日は、事前に、立石副会長、堀場活性化部会長、森すこやか部会長、上村まちづくり副部会長から欠席との御連絡を頂戴している。

議題に移る前に、本日お配りしている資料の確認をさせていただきます。

- ・次第、名簿、配席図
- ・【資料1】基本計画策定スケジュール（案）
- ・【資料2】京都市基本計画審議会第1次案に係る「未来の担い手・若者会議U35」の活動について
- ・【資料3】第1次案に対するパブリック・コメントの概要（速報版）
- ・【資料4】計画の構成
- ・【資料5】計画の背景（案）
- ・【資料6】基本計画のあり方（案）
- ・【資料7】政策の体系（分野別方針）（案）
- ・【資料8】計画の推進（骨子案）
- ・【資料9】重点戦略（案）

また、参考資料として、「リーディングプロジェクト候補事業」を配布している。それでは、以降の進行は宗田委員長にお願いする。

宗田委員長

さっそく、第5回融合委員会を開催させていただきます。

まずはじめに、これまでの審議経過を振り返りながら、第2次案作成に向けたスケジュールを確認する。

事務局（大田京都創生推進部長）

資料1「基本計画策定スケジュール（案）」に基づき、御説明する。

昨年10月5日の第1回総会の開催以降、これまでに各5回の共汗部会、4回の融合委員会で御議論いただいた。これらの議論を踏まえ、第1次案が取りまとめられ、パブリック・コメントを5月21日から6月20日まで実施し、本日の融合委員会では、資料にある議題について御議論いただく。

審議会としては、本日が後半戦の始まりとなり、今後、各共汗部会を2回開催し、それぞれ所管の分野について、第2次案の分野別方針、関連する重点戦略を御議論いただく。この議論を経て8月の融合委員会において、部会の議論も踏まえ、第2次案を取りまとめていただきたい。

その後、9月頃に第2次案に対するパブリック・コメントを実施した後、いただいた御意見を反映するための融合委員会を開催し、最終的な答申案の御検討をいただければと考えている。

なお、第8回目の共汗部会は、第2次案に対するパブリック・コメントの結果を踏まえ、部会長判断により開催いただければと考えている。

その後、第2回総会では、答申案をほぼ御決定いただき、総会でいただいた御意見を反映し、11月頃に答申を行っていただければと考えている。

宗田委員長

ただ今の説明のとおり、今後は共汗部会を各2回、融合委員会を1回開催し、9月頃に第2次案の公表とパブリック・コメントの実施を予定している。

その後に融合委員会を1回と、また必要に応じて共汗部会を開催していただき、最後に総会を1回開催し、11月に答申を取りまとめたいと考えている。

以上、今後はこのスケジュールで進めて参りたいと考えているが、いかがか。

———（異議なし）———

宗田委員長

それでは、このスケジュールで進めることとする。

さて、5月21日から6月20日までの1箇月間実施したパブリック・コメントの募集に当たっては、「未来の担い手・若者会議U35」の皆さんの御支援を頂戴した。

本日は、若者会議の議長でもある松山委員に御出席いただいているので、シンポジウムをはじめとする活動内容を御報告いただく。

更に、活動を通じた市民との対話を基に検討された、基本計画に対する御提案についても御説明いただく。

なお、本日は遅れて参加されるが、若者会議の副議長である越村美保子さんにも、補足説明していただく予定としている。

松山委員

資料2「京都市基本計画審議会第1次案に係る「未来の担い手・若者会議U35」の活動について」に基づき、御説明する。

まず、シンポジウムを5月29日に開催した。当日は、述べ500人の方に着席いただいていた傍聴いただくとともに、対話スペースを設け、御意見を直接頂戴した。

2番目の活動としては、出前パブリック・コメントを実施した。実施場所等は資料のとおりだが、我々が実際に足を運んで回収したものである。

また、パブリック・コメントを入れていただく巣箱を設置し、皆さんからの意見を聴取した。

これらの活動の結果、322名の方から御意見をいただき、私たちの取組ではそのうち約半数に当たる166名から御意見をいただいた。

取組を踏まえた良かった点と反省点は資料の裏面を御覧いただきたいが、全体的な感想として、市民の方はそれぞれ思いを持たれている、と感じた。ただし、それは聞いてみれば出てくるが、ホームページで御覧ください、ではなかなか出てこない。私自身、西京高校で高校生の話を聞いたが、高校生も非常によく考えており、京都に対する思いもあった。西京高校だけでなく、なぜうちには来てくれないのかとの声もあり、非常に好評であったと思う。

反省点としては、パブリック・コメントを形にするまでに時間がかかった点、フライヤー作成に時間がかかったため、シンポジウムで配布できなかった点である。9月に実

施する際は、反省点を踏まえ、よりよいものとしていきたい。

次に、活動を通じた若者会議からの提案について、若者会議としての思いや、働き盛りの方から御意見を頂戴し、検討を行った。第1次案の重点戦略「子どもを共に育む戦略」の中で、「仕事と生活が調和し男女が共に子どもを育てる社会」という文章がある。この後来られる越村さんは実際に子育てをしておられる。実際に子育てし、働き、社会貢献をするということがどういうことかを感じておられる方であり、その御意見も踏まえたうえで、「仕事と家庭と社会貢献を充実させる人を一流の社会人と考える真のワーク・ライフ・バランス」を私たち若者会議からの提案としたい。

宗田委員長

ただ今御説明の点について、御意見などはあるか。

ワーク・ライフ・バランスについては、この委員会の場でもお伺いした。私自身の反省として、本来なら未来像に入れてもよいものであった。基本計画を何度か作ったことがあって、惰性に流れたきらいがある。どこに活かせばよいかよくわからなかった。よく考えてみれば提案にある「一流の社会人」は、これからの生き方に関わるものであり、若い人から御提案いただいたものである。根本から変えなければ、従来のやり方に流されては、未来は開けない。うまく生かせなかった点を反省し、心からお詫びしたい。

私自身も自分の人生で真のワーク・ライフ・バランスを実現したいと思い、大いに反省させていただく。

浅岡副会長

私も賛成である。パブリック・コメントでも鋭い意見が出ており、実質的に意見を出してもらっていることが素晴らしい。

宗田委員長

シンポジウムにブースを設置するなど、非常に上手く意見を聞いていただいている。

浅岡副会長

提案の内容について、社会貢献は良いが、家庭の中の問題、子育ての問題がもう少しあってもよいかと思う。文章が長すぎる面はあるかもしれないが。

宗田委員長

重点戦略については、また後ほど御議論いただきたいと思う。

梶田委員

「一流の」という言い方に少し引っかかる。一流と二流に分けることが気になるので、「望まれる」、「一人前の」などでもよいかもしいない。

松山委員

同様のニュアンスの考えであり、「一流」という表現は変更させていただければと思う。

宗田委員長

「新しい」ではどうか。

梶田委員

「新しい」、「今後望まれる」という面がほしい。

宗田委員長

どれか1つではなく、3つのバランスを取るのが大切という価値観。これまでの何かを犠牲にして仕事に打ち込むと言った価値観とは異なるものだと思う。

西岡委員

非常に重要な点だが、私も「一流」は気になった。本当に実現することを切に願う。ただ、内容は素晴らしいが、やろうと思ってもなかなか難しく、これを夢見て社会に出るが、そうはならない現実に挫折していく面がある。

宗田委員長

御提案いただいた重点戦略「真のワーク・ライフ・バランス」は、資料9に出てくる。詳しくは、後ほど御説明いただくが、この資料では「一流」という言葉は出てこない。

今後、第2次案の公表後にもパブリック・コメントを実施するが、若者会議の皆様には引き続き、対話型のパブリック・コメントで多くの共感を得られるよう御協力をお願いしたい。また、反省点に全庁的な取組になっていなかったなど、いくつか重要なことが挙げられている。今後に生かしていただきたい。

続いて、基本計画第1次案に対して市民の皆様から提出されたパブリック・コメントの概要について、事務局から御説明いただく。

事務局（大田京都創生推進部長）

資料3「第1次案に対するパブリック・コメントの概要（速報版）」に基づき、御報告する。

第1次案に対するパブリック・コメントは5月21日からの6月20日からの1箇月間実施した。

意見の提出方法について、通常の方法としては、郵送、FAX、ホームページの入力フォームなどが用いられるが、今回、若者会議の御協力をいただき、パブコメ単箱の設置や出前パブコメの実施、シンポジウムを行っていただいたほか、宗田委員長、平井副委員長にも御協力いただき、京都市未来まちづくり100人委員会からも御意見をお伺いした。

その結果、件数については現在整理を行っているところであるが、322通、710件の御意見が寄せられた。提出方法別の意見件数の内訳は資料のとおりだが、意見回収用の単箱、出前パブリック・コメント、シンポジウムなど、若者会議の皆様の御協力で得られた御意見が多い。また、パブコメ君のバナーを京都市ホームページに設置し、御意見をいただいた。

次に、計画の項目別の意見件数では、分野別方針に大多数の御意見が集まっているが、市政に対して御意見をいただいたものも含めており、多様な御意見が出たと御理解いた

だきたい。

個々の項目としては、都市経営の理念に2件、京都の未来像に16件、重点戦略に28件、分野別方針に526件、行政経営の大綱に26件、その他、計画そのものやパブリック・コメント自体への御意見などが112件である。

宗田委員長

パブリック・コメントについては、現在、取りまとめ中ということで、今後、各共汗部会において分野別方針の第1次案の修正を検討していただくとともに、次回の融合委員会に向けて、整理を行っていきたい。

ただ今御説明の点について、御意見などはあるか。

松山委員

パブリック・コメントを実際に行って、一番駄目なことは、言いつばなしに終わることである。フィードバックをどこかで行ってほしい。そうしなければ意見を寄せていただいた市民の皆様に失礼に当たる。

宗田委員長

事務局ではどう考えているのか。

事務局（大田京都創生推進部長）

当然ながらいただいた御意見を最大限に反映し、反映できないものはその理由、考え方をお示しすることとなる。

西岡委員

プロセスがよくわからない。例えば京都の未来像に関する御意見が出ているが、それも共汗部会に持っていくのか。

事務局（大田京都創生推進部長）

現在、意見の整理を行っているところだが、御意見を踏まえた議論が必要と考えており、京都の未来像については、次回の融合委員会に修正案をお示しし、御議論いただければと思っている。

事務局（西村総合企画局長）

分野別方針についての御意見は、部会で御議論いただき、次回の融合委員会において、都市経営の理念、京都の未来像、重点戦略を御議論いただいたうえで、共汗部会の議論も含めた最終の整理を行っていただく。

そこですべての意見が整理されるため、次回の委員会で、審議会としてのパブリック・コメントに対する考え方などを示す資料をおはかりしたい。

宗田委員長

時間はないが、本日の資料に示された重点戦略までの御意見は目を通していただき、後ほど重点戦略を御議論いただきたい。

それでは、各共汗部会においては、パブリック・コメントを踏まえ、分野別方針の第1次案の修正を検討していただきたい。

また、都市経営の理念、京都の未来像、重点戦略など、主に、融合委員会で議論してきた項目については、平井副委員長とも御相談しながら、文言の修正を検討し、8月9日に予定している第6回融合委員会において「委員長試案」という形で提示したい、と考えているが、いかがか。

———（異議なし）———

宗田委員長

それでは、続いて、計画の背景等の検討を行いたい。

まずはじめに、「計画の構成」を確認し、「計画の背景」、「基本計画のあり方」、「政策の体系（分野別方針）」、「計画の推進」について検討する。

なお、「計画の背景」については第1回融合委員会における私の説明資料を、「基本計画のあり方」及び「計画の推進」については「未来の京都創造研究会」において取りまとめられた報告書を、それぞれ基礎資料とし、案を作成したものである。

事務局（大田京都創生推進部長）

資料4「計画の構成」を御覧いただきたい。これは、第1次案で御議論いただいた計画の構成のうち、今後どの部分を御議論いただくかをお示ししたものである。

まず、「計画の背景」は、本日御議論いただきたい。

「都市経営の理念」、「京都の未来像」については、パブリック・コメントを踏まえた修正を行った案を次回の融合委員会で御議論いただきたい。

「重点戦略」については、第1次案の修正は次回の融合委員会で行っていただくが、本日は、①松山委員から御提案いただいた真のワーク・ライフ・バランス戦略の追加、②重点戦略に掲げるリーディングプロジェクト、③戦略を推進するための各主体の役割分担、について御議論いただきたい。

「分野別方針」については、各部会で御議論いただくが、「分野別方針」の名称を「政策の体系」としたい。パブリック・コメントで寄せられた縦割りであってはいけないなどの御意見も踏まえて変更するものである。また、各部会で御検討いただく、施策の書き方などの基本的事項について御確認いただきたい。

「行政経営の大綱」については、活性化部会での検討を踏まえ、次回の融合委員会で御議論いただきたい。

最後に、「計画の背景」については、本日御議論いただきたい、と考えている。

続いて、資料5「計画の背景」を御覧いただきたい。

これは、宗田委員長から計画検討の与条件として提示いただいたものであり、計画策定に当たっての現状認識を記載するためのものである。

まず、1ページは、これから何を述べるかを記載したものであり、第1期の基本計画に基づく取組、構想に掲げられた課題とその改善状況を総括している。そして、時代が変化する中で特に注目すべき社会情勢を挙げている。また、これ以外の課題については、政策の体系の中で詳述している、ことを記載している。

次に「人口動向」についてである。

ここでは、「減少局面に入った京都市人口」、「今後も継続する少子化傾向」、「さらに進む高齢化と単身化」、「人口減少を見通した都市構造への転換」、「少子高齢社会を踏まえた京都の活性化」、「重要性を増す大都市の役割」について記載している。

次に、「地球温暖化の加速」についてである。

ここでは、「地球規模の課題である低炭素社会」、「京都議定書の誕生の地としての取組」について記載している。

次に、「グローバル化の進展」についてである。

ここでは、「地球規模に広がる社会・文化・経済活動」、「世界の中の京都」について記載している。

次に、「低経済成長と厳しい京都市財政」についてである。

ここでは、「厳しい日本の経済状況」、「大きく変化する京都市の産業構造」、「脆弱な京都市の財政基盤」、「厳しい地下鉄経営状況」について記載している。

最後に、コラムとして、京都市の人口を100人に換算した場合の状況や住民意識のほか、京都市財政を家計簿に例えている。

続いて、資料6「計画のあり方（案）」を御覧いただきたい。

ここでは、計画の位置付けとして、京都市基本構想に基づく第2期の基本計画であること、単なる行政計画ではなく、市民と行政が共に汗を流して協働する「共汗型計画」として策定することのほか、計画の期間などについて記載している。

続いて、資料7「政策の体系」を御覧いただきたい。

これについては、先ほど申し上げたとおり、それぞれの共汗部会で施策について御議論いただきたいと考えており、そのための基本的な考え方をここで確認したい。

資料の裏面を御覧いただきたい。ここには、第1次案で示された10年後の姿を実現するための手段としての施策を記載するものであり、市政の分野を網羅する形で記載していく。

具体的な記述について、文章はダミーだが、10年後の姿を実現するための取り組む方向性や方策を記載するものである。また、「事業名及び事業に等しい表現は記載しない」としているが、実施計画で具体化するため、基本計画では事業を記載しないことを意図したものである。また、施策指標については、政策指標を参考程度にとどめることから記載しないこととしたい。以上が施策の検討に当たっての大きな方針案である。

続いて、資料8「計画の推進（骨子案）」を御覧いただきたい。

これは、計画に掲げた政策の着実な推進に向けた取組について記載するものであり、「計画に掲げた政策の推進方法」、「計画に掲げた政策の点検」、「国や関係自治体との連携」について記載している。

宗田委員長

ただ今御説明の点について、御意見などはあるか。

乾委員

思いつくままに資料の順序で述べさせていただきます。

リーディングプロジェクトが融合委員会の議題となっているが、分野別方針の議論と密接に関連する。その辺の議論の回し方が部会長として気になる。

「分野別方針」の名称が縦割りに見えるために「政策の体系」に変えるとのことだが、

名前を変えても縦割りは変わらない。全部をごちゃごちゃに議論できるとは思っていないが、むしろ名前はどうでもよく、縦割りとの指摘に対しては、他分野との関連性をきちんと最後の段階で押さえておくという工夫をすることが大切だと思う。

また、政策分野をうるおい部会としてつないだ議論を行ったが、名称変更の中でそのあたりがおろそかになることのないよう御注意いただきたい。

コラムについて、市民に関心を持ってもらうには、100人の村が刺激的ではない。

「計画のあり方」について、各区基本計画と市基本計画は同列補完としているが、その補完性はどこで議論しているのか。各区では分からないが、この場では議論されていない。本来ならば目指すところをすり合わせる必要があるのではないか。

事務局（大田京都創生推進部長）

リーディングプロジェクトの議論について、御指摘のとおり、各共汗部会の所管とも関連が深いと考えている。共汗部会では、融合委員会の状況も御報告させていただき、御議論いただければと考えている。

また、「政策の体系」について、他分野との関連の整理については、扱いを考えさせていただきたい。

うるおい部会でのつながりについて、第1次案でそれぞれの部会のキーワードを扉としてお示ししている。最終的な冊子においても部会で議論したことは明示して参りたい。

区の基本計画との関係について、市の審議会の状況については区にもお知らせしているため、ある程度反映いただけると考えているが、引き続き情報交換は行って参りたい。

宗田委員長

「分野別方針」が「政策の体系」に変わるが、「うるおい」や「活性化」などの区分も取ってしまうのか。

事務局（大田京都創生推進部長）

これについては、残すことを考えている。

乾委員

示された資料が「政策分野「1」」とされているために気になったものである。

宗田委員長

4つの部会のまとまりをばらすのか。

事務局（大田京都創生推進部長）

整理の便宜上、各分野に通し番号を打っているが、バラバラにするという意図はない。部会のまとまりで最終的にも位置付けて参りたい。

塚口委員

「計画のあり方」について、私はまちづくり部会の部会長として、各区の基本計画との関係が気になる。まちづくり部会では空間とのつながりが強い。そうすると部会のメンバーがまったく各区の議論を分からない段階で最終的な議論をまとめるのは怖い。

我々が直接各区検討委員会の方とお会いすることがなくとも、事務局から情報提供いただけるのか。

事務局（大田京都創生推進部長）

各区の検討状況にばらつきがあるが、各区基本計画の状況についても整理がついた段階で提示させていただきたい。

宗田委員長

第1回総会で仲上委員が11区の策定委員会の座長が集まりたいとの御発言があったが、それを行ってもよいかもわからない。

塚口委員

部会長として、最終のまとめに当たって不安を感じる。そういった場があればありがたいと考えており、可能ならば設けていただきたい。

事務局（西村総合企画局長）

御指摘の点は非常に大切な点と考えているが、区計画と市計画がスケジュールにばらつきがあり、7月中にパブリック・コメントを行う区もあれば、9月になる区もある。いずれにせよ8月9日の委員会で第2次案をおまとめいただくため、パブリック・コメントあるいは、その前の段階のものなど、可能な限り早い段階で各区基本計画の全体像をお示しできるよう、区と協議して提出させていただきたい。

また、市計画から区への情報提供としては、今回の第1次案を各区に説明し、区計画策定委員会からも御意見をいただいている。また、150を超える各種団体からも御意見をいただいている。今回、パブリック・コメントを整理したが、これに合わせ、各種団体などの意見もまとめて委員会に報告したい。

乾委員

私は10年前に区基本計画の座長をしていたが、以前から気になっている点として、市、区がバラバラに動いたことが挙げられる。今回も基本的に同じ形で進んでいることが気になっている。

今の話をするのであれば、資料1のフローの中に位置付けてもらいたい。区ごとに基本計画の議論をするならば、そこから出た意見をきちんと返す時間が必要である。一方で、まちづくり部会の話が出たが、これはすべての部会に共通するものである。各区で出てきた話を受け止めて私たちが調整する必要がある。そういう意味で対話をする機会が必要で、各区の座長、部会長はどこかでクロスさせなければならない。大変だが、ディスカッションする時間が必要である。それがどこにもスケジュールに入っていないことが気になる。きちんと時間を取り、それをはめ込んでいくことが重要ではないか。

事務局（西村総合企画局長）

前回の計画策定時も色々と議論があったが、行政区ごとの計画をどう位置付けるかという問題がある。例えば、市の基本計画に各区の方針を盛り込む方法もあるが、統一し

た方針で区ごとに基本計画を作るという方法ではなく、行政区ごとに関連団体、大学の先生に入っていただき、それぞれの行政区でそれぞれの特性に応じた目標を掲げる計画を作ろうと考えている。そのため、できるだけ大きな枠組みで情報交換する中での策定過程の情報提供は必要だと思うが、乾委員がおっしゃっていた各区の座長の意見交換も必要であれば検討したいと思う。各区の座長には基本計画審議会の委員には入っていないが、この融合委員会の場には全区の座長はおられない。最大限それぞれの進ちょく状況を双方が理解しながら進めていくべく、御指示をいただければ事務局として最大限の努力をしたい。

宗田委員長

前回の基本計画から行政区ごとの計画づくりが始まった。局長がおっしゃった計画のあり方と市役所の所掌が一致しない。車をパーツで設計するためのグループが集まって一台の車を作るという精緻な計画ではない。精緻な擦り合わせは必要ではなく、かなりの自由度を持たせている。そう大きくイメージが外れるものではないと思うが、部会長や各区の座長が一堂に会し、イメージのすり合わせを行う座談会を行ってはどうか。

塚口委員

私もそれほど精緻な擦り合わせを求めているものではない。

梶田委員

同列という関係性が引っ掛かる。相互に補完も言葉的には分かるが、何が同列なのか。

宗田委員長

上下関係が無いということだが、具体的なものではなく、それを手さぐりしながらやっっていこうというものだと思う。前回の区基本計画策定時にも住民参加に濃淡があったかと思うが、そういう議論が必要だと思う。

浅岡副会長

リーディングプロジェクトが本日の議題となっているが、資料9と参考資料はどのような関係にあるのか。

事務局（大田京都創生推進部長）

資料9「重点戦略（案）」にリーディングプロジェクトを挙げているが、これを検討した際の参考資料である。

浅岡副会長

重点戦略にリーディングプロジェクトがあって、参考資料を見ると今までのことが並べているだけである。戦略的に何か新たなものを生み出す形となっていない。また、政策の体系とも書かれているが、これは並べ直したただけなのか。新たなものを掲げるのか。

事務局（大田京都創生推進部長）

市が行っている政策のそれぞれについて、具体的にどのように実施するかをお示しす

るものである。リーディングプロジェクトは、重点戦略を横断的に作ろうとしているの中で、戦略をけん引するための事業を掲げようとしているものであり、政策の体系とは別物である。

浅岡副会長

重点戦略で受ける印象とリーディングプロジェクトから受ける印象が異なる。

また、資料5「計画の背景」の内容についても言いたいことがあるが、これが冒頭に来ると非常に分かりにくい。京都のあり方も変えましょう、だからこそ戦略を書きましようとしている。理念などの中身が未来像につながるものになるが、未来像をどこから引き出すかということとつながる記述が必要で、これが一番上に来るというよりは、こういう現状の中からこういう方向を引き出すことが必要だという整理にするべきである。それらを具体的にするために、私たちは未来像をイメージしました、としなければうまくつながらない。

未来像を実現するための重点戦略であり、未来像は10年よりも先を見通したものである。そういう長い尺度も頭に置きながら戦略を検討しており、それにふさわしい政策があるべきで、上下の順番を整理し直したほうがよいと思う。

西岡委員

浅岡副会長と同意見である。「計画の構成」の中の都市経営の理念や未来像などを見てみると明るく、前向きな印象を受けるが、「計画の背景」を見ると問題がある、との文章が並ぶ。

晩婚化、晩産化により出生率が減少とされているが、仕事と子育てを両立できず、男性も女性も就労形態から余裕がないことから少子化が進んでおり、フランスなどで出生率が上昇する中、日本だけが下がっていることもあり、もう少し丁寧に書く必要がある。

高齢化と単身化についても、核家族化という言葉が安易に使われているが、子どもの数が減ると核となって分離する。大正時代は核家族化が一気に進んだが、最近の専門的な議論では「家族規模の縮小」と言われているにも関わらず、ここでは「核家族化」と使われている。

最初に出てくる背景としては、せっきくの未来への提言にあまり希望が持てない文章になっているので考慮していただきたい。

宗田委員長

少し丁寧に書く必要がある。

浅岡副会長

丁寧にというよりは何のために書いているかということである。グローバル化がその後の記述のどこにつながるかが見えにくく、具体的に反映できていない。

宗田委員長

「政策の体系」の上にある「京都の未来像」、「重点戦略」は融合委員会で議論することであり縦割りに陥ることをとどめながら、しっかりと議論していきたい。

それでは、「基本計画のあり方」、「政策の体系」、「計画の推進」に関しても行政区の関

係以外については御了承いただいたが、「計画の背景」は作り直していただきたい。

浅岡副会長

「計画のあり方」の記載場所を変えたほうがよい。あり方と書いておきながら中身があまりふさわしくない。都市経営の理念がむしろ今の時期の新しい視点であり、これを先に出したうえで、背景が来て、未来像につなげてはどうか。

宗田委員長

資料6「計画のあり方」は「共汗型計画」を入れるために作ったページである。

浅岡副会長

内容が不要なのではなく、都市経営の理念が「計画のあり方」であり、タイトルとあっていないのではないかとの指摘である。

宗田委員長

それでは、「計画のあり方」のタイトルと、「計画の背景」は書き直しということをお願いする。

尾池会長

せつかくなので次に進む前に越村さんから御意見をいただきたい。

越村氏

松山議長からお話があったようだが、遅れてきたためずれている点があるかもしれないが御了承いただきたい。

私自身子どもが3人おり、今年の2月に3人目を出産したところである。若者会議で議論していても大学生が京都を出ていく現状を感じている。私自身、大学入学を機に京都に来て、京都に根付いているが、学生時代の友人は京都を離れることが多くさみしい思いをしている。このことから京都で生活する魅力が無いのではと感じている。実際に生活する中でこうしてはどうかとの思いなどを、実際に子育てや結婚をする世代として重要なものとして提案させていただいた。

宗田委員長

続いて、重点戦略の検討を行いたい。

第2次案に向けては、重点戦略の推進を牽引するような「リーディングプロジェクト」と、共汗により推進するための役割分担を盛り込む方向で検討したいと考えている。

この点、京都市内部における議論を踏まえ、重点戦略第2次案の案を御用意いただいている。

それでは、事務局から御説明を御願います。

事務局（大田京都創生推進部長）

資料9「重点戦略（案）」について、1枚目は資料の見方である。まず、タイトル・基本的な考え方は第1次案と同様であり、パブリック・コメントを踏まえた修正は次回の

融合委員会で御議論いただきたい。戦略の枠組みは基本的な考え方を視覚化したものである。リーディングプロジェクトは、「融合と共汗の観点を踏まえた重点戦略を実現するための先導的な役割を果たす具体性のあるプロジェクト」として、各戦略に2つ程度記載している。戦略の推進は、各主体の役割分担を記載したものである。

今回、追加を検討した真のワーク・ライフ・バランス戦略については、これから検討を進めるため、リーディングプロジェクトは1つしか掲げていないが、若者会議等の御提案を踏まえて検討したいと考えている。

宗田委員長

リーディングプロジェクトとはそもそも何なのか。事務局からの提案なのか、すでにあるものなのか。

事務局（大田京都創生推進部長）

参考資料としてお示ししているものは、すでに取り組んでいる事業、あるいはこれから取り組もうとしている事業である。

リーディングプロジェクトは、既存の事業をベースにしながら、新たな事業を検討したいと考えている。今後、基本計画を推進するための実施計画を作ろうとする中で、アイデア段階でこれから肉付けしていく事業も含んでいる。

宗田委員長

この程度の2つの取組では重点戦略は達成できない、他のものを出して欲しいという意見を言っているのか。

乾委員

これは他を拘束するものなのか、例示なのか。書かれ方はどうなるのか。

事務局（大田京都創生推進部長）

書き方としては資料9にお示ししたものを考えているが、先導的と考えたものをお示ししたものである。

宗田委員長

ということは、我々がこのプロジェクトは先導的であるとお墨付きを与えたものになってしまう。そうすると非常に疑問があるものもある。

平井副委員長

私も分からないことがある。リーディングプロジェクトと書かれると、戦略を進めるための象徴的、集中的なものに見える。それにしても内容は甘いと思う。

これまでに議論してきた重点戦略は本当に重点の戦略であり、それを進めるためのリーディングプロジェクトを議論するとなるともっと時間が必要。「リーディングプロジェクト」という言葉に対する認識が我々と事務局で異なっていると感じる。

事務局（大田京都創生推進部長）

あくまでこれは先導するものであり、これ以外の取組を進めていく必要があると考えている。内容の当否はもちろんあるかと思うので、このプロジェクトでは駄目だといったことは御議論いただきたい。

平井副委員長

このプロジェクトには、準備体操の済んでいる第一走者を書こうとしているのか。私はこういうことが大切だということを宣言する意味でも、このリーディングプロジェクト自身が市民と行政の共汗で成り立っていくものであってほしい。リーディングという意味でそれこそ融合が必要である。

塚口委員

リーディングプロジェクトではなく、プロジェクト事例のようなものかと思う。例えば、環境に優しいライフスタイルプロジェクトとあるが、これは18のプロジェクトの総称である。この環境に優しいライフスタイルプロジェクトは事務局でつけた名称だと思うが、そうするとこれを以てリーディングプロジェクトと名付けるのはやや乱暴。こういったプロジェクトがたくさんあり、重点戦略を具体的に行っていくうえでの例であればよいが、色々なものが入っており、それぞれに濃淡がある。これらをすべてリーディングプロジェクトとすると焦点がずれる恐れがある。リーディングプロジェクトの名称を検討すべきである。

事務局（西村総合企画局長）

計画の内容は、審議会で決定していただくので、提案と御理解いただきたい。リーディングプロジェクトを入れた理由としては、重点戦略に基づく5年程度の実施計画を策定し進めていくが、戦略をどう進めていくのかという具体的事例が基本計画にあったほうが分かりやすいのではないかと、という考えで例示したものである。そのため、プライオリティが一番高いというものではなく、京都市がこれから取り組むものを例示する趣旨と御理解いただきたい。

浅岡副会長

環境にやさしいライフスタイルプロジェクトについて、ほぼ並行して地球温暖化対策計画を検討しているが、相互に関連性が持たれていない。ここに掲げていることを地球温暖化対策では環境に優しいライフスタイルプロジェクトとしてはくくっていない。そういうものを挙げたいとすれば、今回の戦略に足りないものがあるということ。手がかりもあればできていないものもある、そういう雰囲気分かるものであればよく、枠囲いにせずいくつかを並べてはどうか。それでもどうしても3つ、4つを選ぶということになると、どの戦略も悩むのではないかと。

尾池会長

「リーディングプロジェクト」という名前が参考資料と対応せずにふさわしくないとの御意見に基づき、議論が進んでいるが、京都をどうするかを示すためにはリーディングプロジェクトはあったほうがよいと思う。今後、議論してこれこそがリーディングと

いうものを挙げたい。事務局の資料は京都市の考え方を示した参考資料だが、これからを示すのがこの審議会の役割であり、リーディングプロジェクトの名称はさておき、中身の議論をしたい。

資料を見れば分かるが、水族館を作るか岡崎を整備するか京都市は考えていない。そうすると我々の議論は梅小路に水族館を作るフォローをするためのものになってしまう。参考資料に載っているからリーディングプロジェクトとしてなっていないというのではなく、部会でも議論し、これこそがリーディングプロジェクトだというものを挙げるべきである。

乾委員

重点戦略の内容こそ、部会できちんと議論したい。重点戦略のこのラインを出した時に、各部会の立場から低炭素について物申すなどの機会を設ければ、例えばうるおい部会からは一人ひとりの立場で低炭素をとらえるといった意見が出るかと思う。

その意見を融合委員会で取捨選択し、ここで掲載すべきものは何か、実現するためのプロジェクトに何があるのかという議論にこそ、多くの人に参加してもらうべきである。

次に、プロジェクトという言い方が怖い。戦略は概念的なものだが、プロジェクトは金を付けて動かすものとなる。そうすれば事業のリアリティの検証も必要で、それをどこで担保するのかという重みのある議論が必要となる。

梶田委員

第1次案から気になっている点として、皆さん「戦略」という言葉がお好きなようだが、誰と何と戦うつもりなのかがよく見えてこない。

宗田委員長

国連で文章を作るとやたらとストラテジーなどの用語が出てくるが、それをそのまま日本語に取り入れたものが「戦略」という言葉である。英語ではもう少し広い概念だが、日本語の「戦略」は軍事用語となっている。

平井副委員長

私は重点戦略それぞれの中にリーディングプロジェクトが入ってくることに違和感を覚える。この重点戦略が分野別方針につながってこなければならぬが、どうつながっていくかが見えておらず、いきなり計画が出てきている。それぞれの活動や行動にどうつなげていくかがきっちりと体系的に書かれなければならない。

また、リーディングプロジェクトになるべきものとして、京都の未来像を目指すために市民、行政が共に取り組む象徴的なプロジェクトが出てくればよいと思うが、戦略につき2つずつという枠があれば壁となってしまうのではないか。ただ、予算が付くことへの責任を我々がどう感じていくかが大きな課題だと思う。

宗田委員長

最初に低炭素が出てくるためにこういう議論になったのかもしれないが、戦略を見ていくとそれぞれ熟度があって、まだ決まっていないものもある。

尾池会長

押し迫った段階だが、戦略、戦術と言った言葉はともかく、プロジェクトが本当に実施可能かを我々が事務局と検討することは意義がある。また、パブリック・コメントは終わったが、京都の未来像には常に遡ってほしい。御意見を踏まえて、戦略を増やしたとしたが、それならば、「学びのまち・京都」と入れ替えて未来像に昇格してはどうか。

そして、その下の重点戦略に「学びのまち・京都」を持ってきて、リーディングプロジェクトがどうあるべきか、そこまで遡って議論してほしい。京都の未来像がピンと来ないとなった時にせつかく出てきたものを大事にしてほしい。ワーク・ライフ・バランスは若者たちからの提案であり、未来像にぴったりだと思う。

浅岡副会長

私も賛成であり、背景の整理がしっかりとすると、そこから何が変えられるかにつながると思う。

また、歩いて楽しいまち・京都を検討している人たちには温暖化対策の重要性を理解してもらえない。

塚口委員

それは誤解だと思うが。

浅岡副会長

その面でも、もう一度つなぎなおす必要がある。

西岡委員

次回の融合委員会でパブリック・コメントを含めて未来像、重点戦略を議論するととらえていたため、当然その辺も変えてもらえるものと理解していたが、重点戦略に載っていないければ何もしてもらえないのかと感じた。パブリック・コメントも丁寧に聞いていただいたが、資料にあるように、「学びのまちとしながら子ども、若者のことしか書かれていない」という趣旨の御意見がある。分野別方針の生涯学習に記載されているのでよいと思っていたが、重点戦略とのつながりが分からない。「学びのまち・京都」を取り去るのではなく、ワーク・ライフ・バランスを加えるなど、パブリック・コメントを踏まえて未来像についても考え直す機会を設けてもらいたい。

秋月委員

リーディングプロジェクトが必要という考えに反対するものではないが、「リーディングプロジェクト」という言葉が何を意味するか、私の理解では未確定である。例えば、法律の世界でリーディングケースと言えば先導ではなく、先例となるが、意味が不明確な語彙を用いるべきではない。

また、前の計画とあまり変わっていないとの指摘もあったが、これまでに京都市が実施してきた計画、事業を含めてもう少し既存のものはあるのではないか。既存の事業を丁寧に洗いだしたほうが分かりやすくなると思う。

更に、パブコメを拝見して、形がそろっていないとの意見が割と多い。そろったほうが気持ちいいんだなと感じた。その観点から言うといくつか微妙な齟齬がある。例えば、

分野別方針では、「市民と行政の役割分担と共汗」と書いておきながらたいてい3つ以上の主体が出てきている。それが重点戦略では、市民、事業者、行政となっていることが齟齬だと思う。また、戦略の資料の中で「柱」という言葉が唐突に出てくる。更に「新産業創造戦略」では、柱らしきものが3つほど書かれているが、「戦略の推進」では1つしか書かれていない。そういったずれが気になる。理由があるずれならよいがもう少し綺麗に整理できないか。私としては、重点戦略と政策の体系の表現がずれていることが最も気になる。

新川委員

「重点戦略」と言うかどうかについて、方策とか方略とか色々な言葉を検討したうえで、戦略に落ち着いたかと思う。

未来の京都創造研究会において、計画を議論した時の課題としては2点。一つはどうバックキャストした計画とするか、つまり理念や未来像を実現しようとするための計画でなければ話にならない。その時に今それが1年、2年でできるのかとの議論もした。同時に、今日も強調されていたように、計画自体は1年、2年で変わってしかるべきで、変化を前提に考えるべきではないか。未来像は変わらないが、今動いているものは変わってしかるべきとの話をしていた。仮に戦略があって何がしかシンボリックな事業を入れるとしても毎年変わってよいのではないか、あるいは白紙でもよいのではないか。そういう手順を組み込んだ計画の仕組みにしなければこれから計画として役に立たない。しっかり完成したものを机に積んでいてもしょうがない、そういう観点で議論していただきたい。

宗田委員長

行政計画は一定の拘束力を持つため、項目に入れておかなければとの考えになるが、それが変化を阻害する要因、計画があるために柔軟な対応ができなくなることの危険性をもっと恐れるべきである。また、熟度が足りないとの指摘もあった。

乾委員

部会運営のための提案になるが、戦略の枠組みの部分が一番大切なものだと思う。戦略を立て、何によってアプローチしていくかを一番充実させなければならない。ここでこそ色々な部会が口を出すことが大切である。戦略の枠組みのところに、環境の視点もあるいて楽しいまちにはあるんだということを示すのが大切で、色々な部会から一度言葉を差し込んでみる作業が必要である。部会で重点戦略の検討を行うと書かれているのは、そのようなことを実施すると思ってよいのか。部会に関連する戦略だけでなくすべての重点戦略について書きこむべきものは何か、という議論をさせてほしい。それを事務局が整理して融合委員会に持ち上がるという形になれば欲求不満が解消される。また、戦略の枠組みの下にどんなプロジェクトがあったらよいかのアイデア出しは今後行うとして、これまでの京都市の取組を戦略にぶら下げ、どこにどれだけの力をかけてきたかを明らかにしてほしい。

宗田委員長

具体的に資料に足りない点は何か。

乾委員

無責任な提案になるが、リーディングプロジェクトと呼ぶなら、これこそ公募してみ
てはどうか。

宗田委員長

先ほど乾委員が指摘していた実現可能性がおろそかになるのではないか。政策の場合
は難しいかと思う。

乾委員

ここで集まっている委員がアイデアを出しても似たり寄ったりではないか。アイデ
ィアを京都市で実現可能性を検証してはどうか。ただ、これは与太話で、リーディング
プロジェクトとはシンボリックなイメージを伴うものであり、シンボル性をどう与えて
いくかを検討すべきである。

宗田委員長

シンボリックなものかと思ったが、シンボル性は低い。

浅岡副会長

そういうものが計画の柱の中に同時になくてはいけないのかという点が難しい。

宗田委員長

戦略の枠組みをきっちり書けば、それを実現するための方策をしっかりと書きこむ
作業をすべきで、それは事務局だけでなく、部会でも御議論いただきたい。

浅岡副会長

理念を掲げ計画を作るという大胆なことをしたときに、それに見合う形で行政で計画
づくりをしたことはないと思う。既存のものをくっつけてくると色あせてしまう。今、
きれいに仕上げたものならば戦略としなくともよかったとなってしまう。

宗田委員長

計画をコンサルタントに書いてもらっていた20年前と比べれば、議論して作る今回
の試みは多大な生みの苦しみを伴う。今日事務局から説明のあった資料について、すべ
てに80点を付けて次に進むというわけにはいかない。

重点戦略は共汗部会でも御議論いただくこと、松山委員に御提案いただいたワーク・
ライフ・バランスは最低限重点戦略とすることは確認されたが、更に未来像とするか否
かを融合委員会としてどう取り扱えばよいか。

浅岡副会長

5つの未来像を支えるベース、基盤として加えてはどうか。

宗田委員長

未来像に加えると不都合なことは何かあるだろうか。

新川委員

重複してしまうことだけが問題。まずは「学びのまち」と重複するだろう。

事務局（大田京都創生推進部長）

「支え合い自治が息づくまち」にも含まれるかと思うが、未来像が6つであってはいけないというものではない。

平井副委員長

「子どもを共に育む戦略」、「地域コミュニティ活性化戦略」とも重なるかと思う。そういう意味では、「支え合い自治が息づくまち」のほうが重なりが強い。

乾委員

そういう意味では、産業ともかかわりが深い。

宗田委員長

人間としての生き方、新しい市民を作るという価値観の問題にかかわる。そういう意味では学んで身に付けるものではない。

新川委員

「学びのまち」は未来に希望を持つために育ていけという趣旨で、京都にはたくさん学校があるから設定した、というものではない。そういう意味では、ワーク・ライフ・バランスの問題でもある。

西岡委員

ワーク・ライフ・バランスは願っているが実現できていないものであり、それを個人に要求されてもつらい。そういう社会にしようということで浅岡副会長がおっしゃるようにベースになるものであり、若い人にはこれを実現できるのが一番の希望のまちだと思う。だからこそ、どの未来像とも重なってくるのかと思う。何かを取り外すよりは違うところに入れてはどうか。

乾委員

未来像を6つにして六角形としてはどうか。

宗田委員長

「都市経営の理念」があるなら「市民の理念」として位置付けてもよいかもしれない。

浅岡副会長

市民だけではできない。未来像となるかどうかはあるが、価値目標、共有すべきものとして挙げてはどうか。

宗田委員長

真のワーク・ライフ・バランスが実現しなければ少子化は解消しない。社会制度は変

わったが、価値制度は変わっていない。

浅岡副会長

未来像を評価するという軸を入れるべき。柱であり、いつもみんなが点検すべきものはこの未来像であり、細かな政策がどうなったかではない。

松山委員

そういう生き方ができればみんなが幸せになるだろうというモデルであり、未来像に入れていただければ大変うれしい。

新川委員

未来像、重点戦略の両方に入れてはどうか。

宗田委員長

色々な御意見が出たが、尾池会長、平井副委員長と相談しながらまとめたい。

今日の議論をまとめると、「計画の背景」は未来像につながる論理展開でブラッシュアップを行う。「計画のあり方」は名前を考える必要がある。「計画の推進」は原案で了承。「重点戦略」は、資料9の表紙にあるように基本的な考え方を踏まえた戦略の枠組み、それをしっかり書いてリーディングプロジェクトとされているが、そこに実現を可能にする意味でリーディングプロジェクトを残し、共汗部会で議論いただいたうえで書き足す形で充実していきたい。

事務局（西村総合企画局長）

全体として、今日提出した資料の点数の低さを反省する。今日の意見を踏まえて委員長と御相談したい。

リーディングプロジェクトについて、審議会にお願いしている内容としては、具体的な事業ではなく、大きな方向性、重点的にすべきものを融合委員会で御議論いただき、各分野で進んでいく方向を共汗部会で御議論いただき、基本計画を作っていたでいる。そして、この計画を実現するための方策は行政で責任を持って実施計画を作っていくこととなる。その中で、リーディングプロジェクトとは何かが明確でなかった。

そのため、リーディングプロジェクトについて、各部会で御議論いただく進め方はストップしていただきたい。この扱いについて、今日の御意見を踏まえて、会長、正副委員長と御相談したい。

宗田委員長

それでは、戦略の枠組みに書いてある要素は共汗部会で議論していただくが、リーディングプロジェクトの議論は待つていただくこととしたい。重点戦略は生煮えという点もあるが、そういう状態を出していただいたために委員会の議論が広がった点もある。

我々が気づかなければならないことは、基本計画が市会の議決を経ることである。議案として何を書くかということに局長としての責任があり、それが市役所の中でも固まっていないのだと思う。それをどう我々と議論するかに悩みがあるのだと思うが、我々に議論の余地があるのだと思うので、各分野で前向きな発言をいただきたい。

融合委員会をもう一度開くなど、答申が少し遅れてでも市会に御理解いただいて、一生懸命議論してもよいかもしれない。

乾委員

局長の発言の確認について、リーディングプロジェクトは部会で議論しないが、戦略の枠組みは議論してよいのか。

事務局（西村総合企画局長）

よい。戦略の枠組みの重要性を認識しておらず、基本的な考え方を視覚化するという観点で作ったが、ここに各分野の議論を盛り込むことは非常に大切なものと認識した。そういう御議論をいただきたい。

宗田委員長

しっかりと御議論いただき、融合しているということを書いていきたい。

尾池会長

会長として、若者会議のパブリック・コメントの活動と成果に非常に感謝している。他のメンバーにもお伝えいただきたい。

今日の議論で、未来像の五角形が六角形に成長するかもしれない。結晶化には非常に時間が掛かるが、安倍晴明の五角形が六角形になるのは随分な進歩である。

由木副市長

私自身ももやもやしていたところが今日の議論により、だいぶはっきりしてきた。そこが分かれば解決策も見つかる。いくつか出た点は内部で議論し、委員長等と御相談し、こういう考え方でいきたいということを御相談させていただきたい。

また、パブリック・コメントをもう一度行うので、二回も同じ意見が出ることがないようにしていきたい。また、各区基本計画との議論も資料の提供になるかはあるが、仕組みの面でも検討していきたい。

宗田委員長

最後に、事務局から事務連絡等はあるか。

事務局（大田京都創生推進部長）

8月9日（月）に次回の融合委員会を開催する。

なお、計画の背景は改めて書き直すが、御専門の目から我々の知見が足りない点など、改めて御指摘いただきたい。

宗田委員長

本日の審議会は、以上で終了する。